

市報

No.604

平成 21 年 (2009) 10 月 15 日発行

発行人：飯山市長 石田正人
編集：飯山市役所総務部
庶務課秘書広報係
〒389-2292 長野県飯山市
大字飯山 1110-1
電話：0269-62-3111
FAX：0269-62-5990
インターネットホームページアドレス
<http://www.city.iiyama.nagano.jp>
E-mail：kikaku@city.iiyama.nagano.jp

もくじ

中国・大連市に飯山市連絡所・・・・・・・・・・・・・2ページ
平成20年度普通会計・特別会計決算、水道事業決算・・・・・・・・・・・・・4～8
出産一時金の制度が変わります・・・・・・・・・・・・・9
新幹線開業に向けた市内の工事の状況・・・・・・・・・・・・・10
新幹線インフルエンザ対策④・・・・・・・・・・・・・11
保育園入園のご案内・・・・・・・・・・・・・14

日中友好の精神に基づく観光交流、農業研修交流などの友好交流を増進

中国大連市に連絡所を開設

飯山市ではこのほど、中国大連市に日本国飯山市政府大連連絡所開設の運びとなり、9月26日、大連市で中国出国人員服務総公司大連労働分部の沙秀敏総経理と石田市長が協定書の調印を行いました。



△協定書に署名をする石田市長と沙総経理。



△飯山に農業研修生として滞在していた皆さんとの交流会。お互いに再会を喜びました。

員服務総公司は、その研修生の派遣を行っている会社で、同社の全面協力で今回の連絡所開設が実現しました。中国出国人員服務総公司の事務所の中に開設された連絡所には、日本語のできる現地のスタッフ1名が置かれ、農業研修生についての仲介や、中国での観光売り込みの拠点としていきたい考えです。また大連市役所に表敬訪問し、第一副市長と今後の大連と飯山の

友好的な交流について懇談を行うこともできました。今回の訪問は、石田市長のほか、市議会、農業委員会、JA北信州みゆき、飯山市観光協会等の関係者や、研修生を受け入れた農家の代表の皆さんも同行。農業研修施設の視察や帰国した中国人農業研修生との交流も行われ、今後の両市の友好な交流の第一歩を刻みました。

大連市

中国の東北部、遼東半島の最南端に位置する総人口約600万人ほどの大都市。古くから盛んな農産物や水産物の産業のほか、中国有数の港湾都市として、東北一の経済先進地として近年成長を続けている。

生活を見直し循環型社会の構築を

「3R促進ポスターコンクール」審査結果

市では、ごみをできるだけ出さない『リデュース』、使えるものを繰り返し使う『リユース』、再び資源として利用する『リサイクル』の英語の頭文字を取って名づけられた循環型社会構築に向けた取り組み「3R」を促進するための啓発用ポスターを市内の小中学生の皆さんから募集し、その結果、左記の皆さんが入賞されました。



△力作ぞろいのポスターは、市公民館で展示されました。

今後「3R」の取り組みを引き続き行っていきたいと思います。市民の皆さんも身近なところから取り組みをお願いします。

●入賞された皆さん（敬称略）

賞名	氏名	学校	学年
ポスター化賞	山崎 慈	飯山小	4年
	塩入 実里	第一中	3年
	上原 優希	戸狩小	6年
ステッカー賞	塩崎 耀	飯山小	1年
	平瀬 梓彩	飯山小	2年
	杉山 早紀	戸狩小	3年
金賞	宇田 詠美	飯山小	4年
	金崎 蒔	戸狩小	6年
	塩崎 葵	第一中	1年
	石田 一輝	戸狩小	2年
	福沢 爽花	戸狩小	2年
	塩崎 崇	飯山小	3年
銀賞	岡叶 望	常盤小	4年
	富野 永遠	戸狩小	5年
	水原 澄夏	戸狩小	6年
	上海 悠夏	第一中	1年
	長谷川 芽衣	飯山小	4年
	渡邊 天寧	飯山小	4年
銅賞	山田 唯	第一中	2年

(仮) 寺町交流館

現在の建設状況をお知らせします

8月に着工した(仮)寺町交流館の建設は、地元区である田町、愛宕町両区の全面的なご協力をいただき、計画通りに進行しています。これまでは建物の基礎工事やスロープ等の土木工事が終了し、この『広報飯山』が皆様のお手元に届く頃には、上棟となる予定です。

施設内部は、市内外から訪れる方がゆつくりとくつろげる『交流室』と、人形を展示してご覧いただくための『展示室』とに分かれています。外周りは、飯山の四季の移ろいがわかるような景観とするため、愛



△10月25日まで飯山市ふるさと館で開催中の「高橋まゆみ創作人形の世界展」の様子。

宕町からは敷石のスロープでつながり、市街地を歩きながら訪れていただけるように配慮します。寺町交流館入口から交流室にかけては、古民家風の扉や土間、天井の梁などもご覧いただくことができ、ゆつたりくつろげる空間を演出します。展示室は、現在のところ80組程度の人形たちを常時展示する予定で、ジオラマも設置する予定です。また、年数回模様替えをし、訪れるたびに違った人形に多く出逢えるように配慮するとともに、企画展も実施したいと考えています。

完成は平成22年3月中旬、開館は平成22年4月24日(土)を予定しています。開館半年前となった現在、



寺町交流館 平面図

多くの皆様に施設の工事状況や高橋まゆみ創作人形展の全国巡回展のあゆみなどをお知らせすることを目的に、10月25日まで市ふるさと館において「人形館と高橋まゆみ創作人形の世界展」を開催していますのでぜひご覧ください。

お問い合わせ

教育委員会事務局 学習支援課（飯山市公民館内）
☎33342

市長の

悠久のふるさとづくり ⑮

飯山市長 石田正人



私が農協組合長当時、「キノコ栽培をやめようか」と相談がありました。どうしてかと聞くと、「老齢となり体力も衰え、棚に上げるコンテナが重くて上がらなくなった。母ちゃん一人がかりでやっこだ」との事。何とかしなければと思っていた矢先、中国で農村青年を日本に研修生として送り出す政策が始まると聞いたのです。関係機関に連絡を取り、この地域で研修生の受け入れを始めてもう10年近くになります。現在も農協で50名余りの研修生が頑張ってくれています。キノコ農家にも喜ばれ、やめることなく続けられているという事です。

この縁もあり、発展を続ける中国の皆さんに新幹線開業にあわせて飯山へ来ていただくこと、この度、中国大連に連絡所を開設いたしました。市議会議員、農業委員、農協役員、観光協会役員、研修生受け入れ農家の皆さんが、自費で大連を訪れ、無事に中国出国人員服務総公司の調印をすることができました。連絡所は同公司より無償で提供していただき、更に、飯山市とのホットラインの整備や、連絡員も置いていただけたので、その恩に報いたいとのことでした。日本人がやめずれば忘れがちな面が中国にはしっかり残されていました。また大連市役所では第一副市長にお会いしましたが、事前に飯山をお米がおいしいそうなのでぜひ行ってみたい」との事でした。帰国した研修生も久しぶりに受入農家の皆さんと再会し、涙を流して喜び「私達の第二のふるさととは飯山です。飯山へ多くの中国人が行けるよう頑張ります」との言葉もいただきました。やがて来る新幹線。大連から4時間で来るこのルートを日中友好事業と一緒に取り組んでゆかなければと、新たな決意を持ちました。